

**“PENGUNAAN MODEL PEMBELAJARAN KOOPERATIF *ROUND TABLE*
DALAM MENINGKATKAN PENGUSAAN POLA KALIMAT DASAR
BAHASA JEPANG”**

Mia Mukarromah

0907302

ABSTRAKSI

Berdasarkan wawancara yang telah dilakukan kepada siswa kelas XI IPA SMA Negeri 15, kesulitan yang dialami siswa dalam pembelajaran bahasa Jepang banyak ditemukan pada pemahaman kosakata dan pola kalimat. Kesulitan tersebut dikarenakan susunan pola kalimat bahasa Jepang berbeda dengan pola kalimat bahasa Indonesia. Selain itu siswa berpendapat bahwa metode pengajaran yang diberikan kurang menarik dan monoton, karena pada umumnya guru mengajarkan bahasa Jepang dengan metode konvensional (ceramah), sehingga siswa merasa jenuh dan bosan dalam belajar.

Oleh karena itu, peneliti menerapkan model pembelajaran kooperatif *round table* pada pembelajaran pola kalimat dasar bahasa Jepang. Tujuan penelitian adalah untuk mengetahui : (1) kemampuan penguasaan pola kalimat bahasa Jepang siswa sebelum menggunakan model pembelajaran kooperatif *round table*, (2) kemampuan penguasaan pola kalimat bahasa Jepang siswa setelah menggunakan model pembelajaran kooperatif *round table*, (3) efektifitas penggunaan model pembelajaran kooperatif *round table* dalam meningkatkan penguasaan pola kalimat bahasa Jepang siswa, dan (3) tanggapan siswa mengenai pembelajaran pola kalimat dengan menggunakan model pembelajaran kooperatif *round table*.

Penelitian ini menggunakan metode eksperimen murni (*true experimental*) dengan desain “*Control Group Pre-test Post-test*”. Populasi dalam penelitian ini adalah seluruh siswa kelas XI SMAN 15 Bandung, dan sampelnya adalah 30 orang siswa kelas XI IPA 1 sebagai kelas eksperimen dan 30 orang siswa kelas XI IPA 3 sebagai kelas kontrol. Adapun instrumen penelitian ini adalah tes dan angket.

Hasil penelitian menunjukkan dari pengolahan data tes, diperoleh $t_{hitung} = 4.66$ dengan $db = 59$ dan nilai $t_{tabel} = 2.68$ (1%). Karena $t_{hitung} (4.66) > t_{tabel} (2.68)$, maka dapat disimpulkan bahwa hipotesis kerja (H_k) diterima sedangkan hipotesis nol (H_o) ditolak. Dengan demikian hasil ini menunjukkan bahwa terdapat perbedaan yang signifikan antara kelas eksperimen dan kelas kontrol, maka model pembelajaran kooperatif *round table* efektif digunakan dalam pembelajaran pola kalimat dasar bahasa Jepang.

Hal tersebut diperkuat dengan hasil angket yang telah peneliti dapatkan. Meskipun pembelajar menganggap mempelajari pola kalimat bahasa Jepang itu sulit, tapi setelah penerapan model pembelajaran Kooperatif *round table*, hampir seluruh responden beranggapan bahwa penggunaan model pembelajaran kooperatif *round table* dapat memudahkan siswa dalam mempelajari pola kalimat bahasa Jepang, dan dapat meningkatkan penguasaan pola kalimat dasar bahasa Jepang.

Keyword: Model pembelajaran kooperatif, Round Table, Pola Kalimat Dasar

Mia Mukarromah, 2013

Penggunaan Model Pembelajaran Kooperatif Round Table Dalam Meningkatkan Penguasaan Pola Kalimat Dasar Bahasa Jepang

Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

日本語の基本文型の習得を増加するにおける

Cooperative Round Table 学習モデルの使用

ミア ムカロマー

0907302

予備調査によると、日本語の学習問題は語彙と文の理解である。その問題は日本語の文型とインドネシアの文型の構造が違うからである。それに、学生は日本語の学習方法があまり面白くなく、単調だということを言われた。それは、普通にはスピーチ方法で教えて、学生がつまらなくなると言うことを言われた。

その問題を解決するために、日本語の基本文型の学生に対して *cooperative round table* 学習モデルを応用することである。本研究の目的は：(1) *cooperative round table* 学習モデルを使用する前に、学生の日本語の文型の習得を知るため、(2) *cooperative round table* 学習モデルを使用した後に、学生の日本語の文型習得を知るため、(3) 日本語の文型習得を増加するにおける *cooperative round table* 学習モデルの効果を知るため、(4) *cooperative round table* 学習モデルで日本語の文型学習に対して学生の反応を知るためである。

本研究は「*Control Group Pre-test Post-test Design* の *True Eksperimental*」という方法を使用する。サンプルは実験クラスとして 30 名で、コントロールクラスとして 30 名のである。それに、本研究で作用されている調査方法はテストとアンケートである。

テストのデータ分析結果によると、 t 得点 = 4.66 $db = 59$ であるから、 t 表 = 2.68 (1%). それでは、 t 得点(4.66) > t 表 (2.68) なので、*Working Hypotesis* (Hk) が受け取られる。その Hk は実験をしてから、実験クラスとコントロールクラスの平均点の間に、有意差があると言われる。つまり、日本語の基本文型学習に *cooperative round table* の学習モデルは効果的であると意味する。

調査のアンケートの結果では学生は日本語の文型を勉強するのは難しくても、*cooperative round table* 学習モデルを応用した後で、ほとんどの学生は *cooperative round table* 学習モデルは日本語の文型を勉強するのはもっと易くなり、日本語の基本文型習得を増加できると言われる。

キーワード：学習モデル、*Cooperative*、*Round Table*、基本文型

A. 初めに

予備調査によると、日本語の学習問題は語彙と文の理解である。その問題は日本語の文型とインドネシアの文型の構造が違うからである。それに、学生は日本語の学習方法があまり面白くなく、単調だということを言われた。それは、普通にはスピーチ方法で教えて、学生がつまらなくなると言うことを言われた。

その問題を解決するために、日本語の基本文型の習得を増加するにおける *cooperative round table* の学習モデルを応用した。本研究の目的は日本語の基本文型の習得を増加するにおけるの効果を知らるためである。

B. 問題式

1. *Cooperative round*

table 学習モデルを使用する前に、学生の日本語の文型習得はどうであるか。

2. *Cooperative round*

table 学習モデルを使用した後に、学生の日本語の文型習得はどうであるか。

3. 日本語の文型習得を増加するにおける *cooperative round*

table 学習モデルの効果はどうであるか。

4. *Cooperative round*

table 学習モデルで日本語の文型学習に対して学生の反応はどうであるか。

C. 研究目的

1. *Cooperative round*

table 学習モデルを使用する前に、学生の日本語の文型習得を知るためである。

2. *Cooperative round*

table 学習モデルを使用した後に、学生の日本語の文型習得を知るためである。

3. 日本語の文型習得を増加するにおける *cooperative round*

table 学習モデルの効果を知るためである。

4. *Cooperative round*

table 学習モデルで日本語の文型学習に対して学生の反応を知るためである。

D. 研究のポピュレーションとサンプル

本研究のポピュレーションは全部のバンドン第 15 国立高等学校の XI クラスである。サンプルは実験クラスとして 30 名ので、コントロールクラスとして 30 名である。それに、本研究で作用されている調査方法はテストとアンケートである。

E. 研究方法

本研究は「*True Eksperimental*」と言う方法で行なわれている。また、使用された本研究のデザインは「*Control Group Pre-test Post-test Design*」である。

本研究のデザイン

クラス	事前テスト	待遇	事後テスト
実験	T1	X	T2
コントロール	T1	-	T2

説明:

T1 : コントロールクラスと、待遇の前に実験クラスに、学習者
日本語の基本文型能力を知るため事前テストである。

X : 待遇 (Cooperative Round Table 学習モデルの応用)

T2 : コントロールクラスと、待遇の後に実験クラスに、学習者
日本語の基本文型能力を知るため事後テストである。

F. データの分析の結果

事後テストの結果

	実験クラス	コントロールクラス
平均点	9.003	8.146
標準偏差	0.557	0.824
標準誤差	0.103	0.153
標準誤差の連合	0.184	

テストのデータ分析結果によると、 t 得点 = 4.66 db = 59 であるから、 t 表 = 2.68 (1%). それでは、 t 得点(4.66) > t 表 (2.68) なので、Working Hypotesis (H_k) が受け取られる。その H_k は実験をしてから、実験クラスとコントロールクラスの平均点の間に、有意差があると言われる。つまり、日本語の基本文型学習に *cooperative round table* 学習モデルは効果的であると意味する。

調査のアンケートの結果では学生は日本語の文型を勉強するのは難しくても、*cooperative round table* 学習モデルを応用した後で、ほとんどの学生は *cooperative round table* 学習モデルは日本語の文型を勉強するのはもっと易くなり、日本語の基本文型習得を増加できると言われる。

G. 終わりに

事前テストの結果によると、実験クラスの平均点は7.26で、コントロールクラスは6.86である。それは、解釈表にとって、「けっこう」にふくめる。つまり、コントロールクラスと*cooperative round table*学習モデルを応用する前の実験クラス的能力は同じである。

事後テストの結果によると、実験クラスの平均点は9.003で、コントロールクラスは8.146である。それは、解釈表にとって、実験クラスの平均点は「とてもいい」にふくめて、コントロールクラスの平均点は「いい」にふくめる。つまり、*cooperative round*

table学習モデルを応用した後で実験クラス的能力は、コントロールクラスよりもっと良いである。

実験クラスの*normalized*

*gain*は0.669で、学習効果クライテリア表にとって、「効果的な学習」にふくめる。

コントロールクラスの*normalized*

*gain*は0.401で、「あまり効果的ではない学習」にふくめる。つまり、日本語の基本文型学習における*cooperative* round tableの学習モデルは効果的という意味が分かる。

